西地遺跡発掘調査　現地説明会

平成２４年　４月３０日　　高松市立塩江中学校

発行：高松市教育委員会文化財課

図１　調査区全景 (南から)

1　はじめに

塩江中学校では , 塩江地区の小中学校建設が実施されています。これに先立ち昨年度，試掘調査を実施した結果 , 遺跡が発見されたためこの地区の字名から「西地遺跡」という名前をつけました。今回の発掘調査は 3 月末から行っており，塩江町で初めての発掘調査となります。今日の現地説明会では，これまでにわかっている発掘調査の成果を紹介します。

2　調査成果

14 世紀 (室町時代) を中心とする時期の溝 3 条・掘立柱建物 2 棟・土坑・複数の柱穴を検出しました。

(1) 見つかった遺構・遺物

◯溝 3

調査区の中央を南北方向に流れる，幅約 2.3m・長さ約 22．0m・深さ最大 70 ㎝の大溝です。時期を判断する手がかりとなる遺物が出土していないため，明確な時期はわかりませんが，溝 3 が完全に埋まった後に溝 22 が作られていることから，溝 22 よりも古い時期の遺構といえます。

◯溝 22・23

溝 22 は東西方向，溝 23 は南北方向の溝で，いずれも幅約 50cm・深さ約 30cm です。調査区中央で T 字に交わっています。溝 23 が埋まった土からは 14 世紀 (室町時代) の土器が出土しているため，溝 23 が完全に埋まり，溝としての役割を終えたのは 14 世紀であることがわかります。一方，溝 22 は溝 23 が埋まった後も，溝として使い続けたと考えられます。これを証明するように溝 22 に埋まった土からは，溝 23 から出土した土器よりも新しい時代の土器 (江戸時代の磁器の破片) が出土しています。

◯掘立柱建物 1

調査区西側に位置する掘立柱建物です。現在見つかっているのは 1 間 ×1 間で，建物の規模は約 4.6 ㎡です。ただし柱の配置から考えると，さらに南側に柱が並んでいた可能性もあり , より大規模な建物だったのかもしれません。

◯掘立柱建物 2

調査区南側に位置する 2 間 × 3 間の掘立柱建物で，建物の規模は約 30 ㎡です。溝 23 を横切るように建てられていることから，先後関係は不明ですが，溝 23 が機能していた時期と異なる時期の建物と考えられます。

掘立柱建物 1 と掘立柱建物 2 のどちらが古い建物であるかはわかりませんが，柱の並ぶ方向にやや違いがあるため，両者は異なる時期の建物かもしれません。

（2）まとめ

以上のことから , 西地遺跡には①溝 3 が機能していた段階 (溝 22 よりも古い時期) , ②溝 22・23 が機能していた段階 (？～ 14 世紀), ③溝 22 のみが機能していた段階 (14 世紀～江戸時代), ④掘立柱建物 1 ・2 が建てられた段階 (②③と④との先後関係は不明), という段階があることがわかりました。

これまで塩江地区では発掘調査が行われていなかったため，江戸時代以前の人々の営みについてはほとんどわかっていませんでした。しかし，今回の調査によって室町時代を中心とする時期にこの土地に人々が住みはじめ，それから何世代かにわたって生活をしていたことが明らかになりました。今後も調査を続けることで西地遺跡における集落の変遷を明らかにすることができると考えられます。

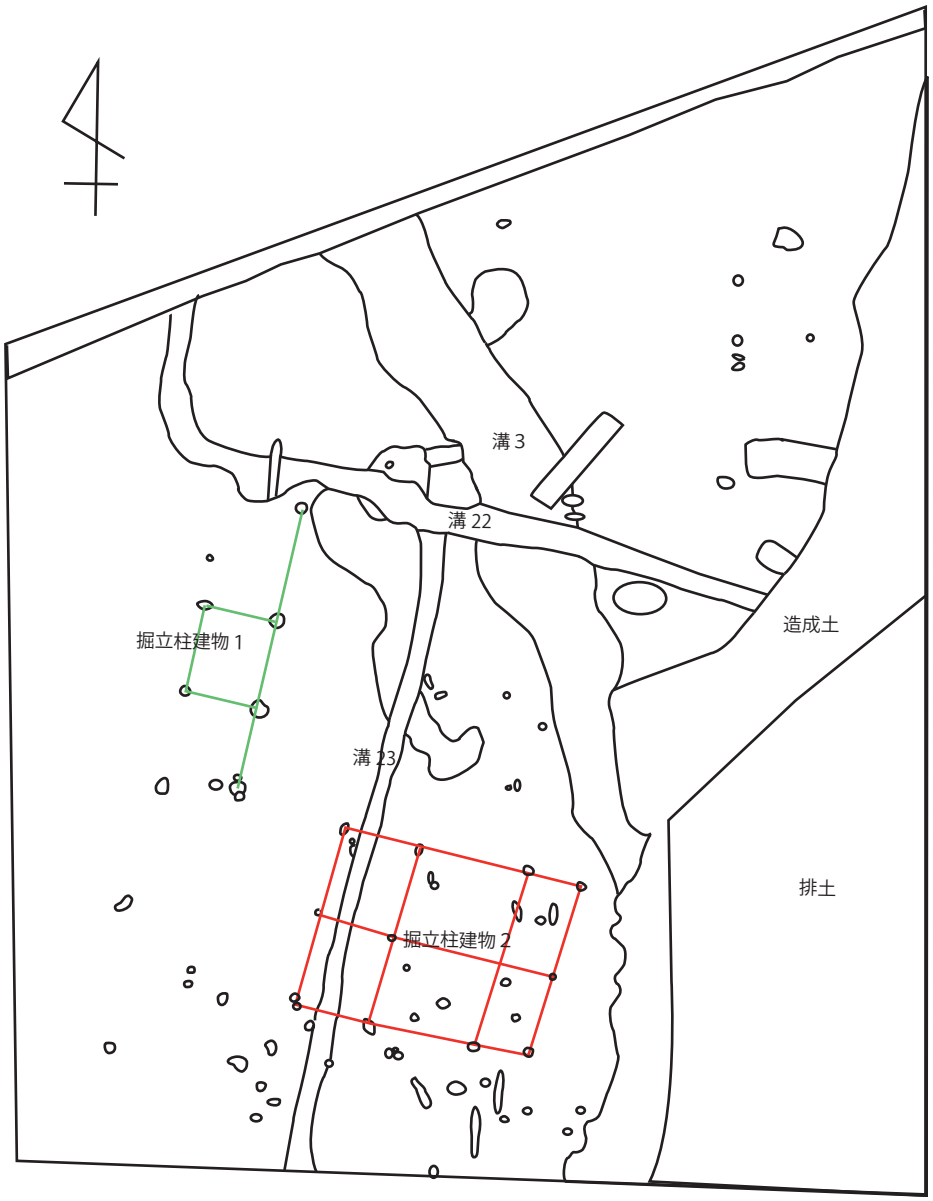

図 2　　遺構配置図 (S= 1 /200)

西地遺跡周辺の遺跡

塩江町には西地遺跡以外にも以下のような遺跡が存在します。

○岩部屋敷跡 (岩部別荘跡・川田氏屋敷跡)(安原上)

天霧城主香川元信の甥川田景安は権兵衛尉と称し，岩部に移り住んだといわれており，かつての小学校跡地がその城跡と伝えられています。また，『山陽古城記』には「土居構の古城」という記述があります (参考文献 1)。

○高畑 (たかばたけ) 遺跡 (安原下)

遺跡の具体的な様相は明らかになっていませんが，弥生時代後期の土器が出土しています (参考文献２)。

○内場 (ないば) 城跡 (上西)

内場池の西側の高さ 44mの城山が，塩江町に古くから住んだ豪族「藤澤氏」の居城といわれています。(参考文献２)

○音川別荘跡 (安原下)

松平頼重の別荘で，夏季の避暑用として利用されました。最明寺の 100m余り北方の一段高い平地で，東西約 70m・南北 30mの場所であることが想定されています (参考文献３)。

○音川城跡 (安原下)

川田信濃守景信の居城であり，標高 260mの小山の頂部に築かれています。堀や土塁が発見されています (参考文献１)。

○甲斐股城跡 (上西)

伊豆八郎信能の居城とされています。江戸時代の墓と炭焼き窯跡がありますが，城跡とすべき遺構は現在のところ確認されていません (参考文献１)。

参考文献

１　香川県教育委員会編　2003『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』
２　塩江町史編纂委員会編　1996『新修　塩江町史』
３　松平公益会編　1964『高松藩祖　松平頼重傳』